

座標空間内の直線  $l$  と  $z$  軸はねじれの位置にあるとする.  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線がただ 1 つ存在することを示せ.

(24 大阪大 文系 2)

【答】 略

【解答】

座標空間における原点を  $O$  とおく.  $l$  上の 1 点を  $A$ , 方向ベクトルを  $\vec{\ell}$  ( $\neq \vec{0}$ ) とおくと,  $l$  上の点  $P$  は実数  $s$  を用いて

$$\vec{OP} = \vec{OA} + s\vec{\ell}$$

と表すことができ,  $z$  軸の方向ベクトルを  $\vec{m}$  ( $\neq \vec{0}$ ) とおくと,  $z$  軸上の点  $Q$  は実数  $t$  を用いて

$$\vec{OQ} = t\vec{m}$$

と表すことができる.

2 直線  $l$ ,  $z$  軸 はねじれの位置にあるから,  $l$ ,  $z$  軸 は  
共有点をもたず, かつ平行でない.

$l$ ,  $z$  軸 は共有点をもたないから,  $\vec{PQ} \neq \vec{0}$  であり, つねに直線  $PQ$  が存在する.  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線がただ 1 つ存在することを示すには

$$\begin{cases} \vec{PQ} \cdot \vec{\ell} = 0 \\ \vec{PQ} \cdot \vec{m} = 0 \end{cases}$$

を満たす  $P$ ,  $Q$  がただ 1 組存在することを示せばよい.

$$\vec{PQ} = t\vec{m} - s\vec{\ell} - \vec{OA}$$

であるから

$$\begin{cases} (s\vec{\ell} - t\vec{m}) \cdot \vec{\ell} = \vec{AO} \cdot \vec{\ell} \\ (s\vec{\ell} - t\vec{m}) \cdot \vec{m} = \vec{AO} \cdot \vec{m} \end{cases}$$

を満たす  $s$ ,  $t$  がただ 1 組存在することを示せばよい.

$$\begin{cases} |\vec{\ell}|^2 s - (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) t = \vec{AO} \cdot \vec{\ell} & \cdots \cdots \textcircled{1} \\ (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) s - |\vec{m}|^2 t = \vec{AO} \cdot \vec{m} & \cdots \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

$\textcircled{1} \times |\vec{m}|^2 - \textcircled{2} \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m})$  より

$$\{|\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 - (\vec{\ell} \cdot \vec{m})^2\} s = (\vec{AO} \cdot \vec{\ell}) |\vec{m}|^2 - (\vec{AO} \cdot \vec{m}) \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{1} \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) - \textcircled{2} \times |\vec{\ell}|^2$  より

$$\{|\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 - (\vec{\ell} \cdot \vec{m})^2\} t = (\vec{AO} \cdot \vec{\ell}) \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) - (\vec{AO} \cdot \vec{m}) |\vec{\ell}|^2 \quad \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$l$ ,  $m$  は平行でないから,  $\vec{\ell}$ ,  $\vec{m}$  のなす角を  $\theta$  とおくと,  $\theta \neq 0, \pi$  であり

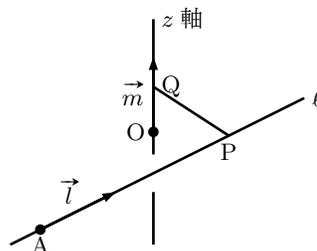
$$|\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 - (\vec{\ell} \cdot \vec{m})^2 = |\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 (1 - \cos^2 \theta) \neq 0$$

である. したがって,  $s$ ,  $t$  は

$$s = \frac{(\vec{AO} \cdot \vec{\ell}) |\vec{m}|^2 - (\vec{AO} \cdot \vec{m}) \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m})}{|\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 - (\vec{\ell} \cdot \vec{m})^2}$$

$$t = \frac{(\vec{AO} \cdot \vec{\ell}) \times (\vec{\ell} \cdot \vec{m}) - (\vec{AO} \cdot \vec{m}) |\vec{\ell}|^2}{|\vec{\ell}|^2 |\vec{m}|^2 - (\vec{\ell} \cdot \vec{m})^2}$$

としてただ 1 組の解をもつ. すなわち,  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線がただ 1 つ存在することが示された. ..... (証明終わり)



- 座標空間における原点を  $O$  とおく.  $l$  上の 1 点を  $A$ , 方向ベクトルを  $\vec{l} (\neq \vec{0})$  とおくと,  $l$  上の点  $P$  は実数  $s$  を用いて

$$\vec{OP} = \vec{OA} + s\vec{l}$$

と表すことができ,  $z$  軸上の方向ベクトルを  $\vec{m} (\neq \vec{0})$  とおくと,  $m$  上の点  $Q$  は実数  $t$  を用いて

$$\vec{OQ} = t\vec{m}$$

と表すことができる.

2 直線  $l, z$  軸 はねじれの位置にあるから,  $l, m$  は

共有点をもたず, かつ平行でない.

$\vec{l}, \vec{m}$  は  $\vec{0}$  でなく, 平行でないから,  $\vec{l}, \vec{m}$  に垂直な  $\vec{0}$  でないベクトル  $\vec{n}$  が存在する.  $\vec{l}, \vec{m}, \vec{n}$  は 1 次独立であるから, 実数  $p, q, r$  を用いて

$$\vec{OA} = p\vec{l} + q\vec{m} + r\vec{n}$$

と表すことができる. これは

$$\vec{OA} - p\vec{l} - q\vec{m} = r\vec{n} \quad \cdots \cdots \textcircled{7}$$

と変形することができる.

$$\vec{OP} = \vec{OA} - p\vec{l}, \quad \vec{OQ} = q\vec{m}$$

となる点  $P, Q$  はそれぞれ直線  $l, z$  軸 上の点である. このとき,  $\textcircled{7}$  は

$$\vec{OP} - \vec{OQ} = r\vec{n} \quad \therefore \vec{QP} = r\vec{n}$$

である.  $l, z$  軸 は共有点をもたないから,  $\vec{QP} \neq \vec{0}$  であり,  $\vec{n}$  と平行である. すなわち, 直線  $PQ$  は  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線である (存在すること).

次に,  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線  $PQ$  はただ 1 つであることを示す.

$l$  上に  $P, P'$ ,  $z$  軸上に  $Q, Q'$  があり,  $PQ, P'Q'$  がともに  $l$  と  $z$  軸の両方に直交するとする. このとき

$$\vec{PP'} + \vec{P'Q'} + \vec{Q'Q} + \vec{QP} = \vec{0}$$

が成り立つ. 実数  $a, b, c$  を用いて

$$\vec{PP'} = a\vec{l}, \quad \vec{P'Q'} = b\vec{n}, \quad \vec{Q'Q} = c\vec{m}$$

と表すことができ

$$a\vec{l} + b\vec{n} + c\vec{m} + r\vec{n} = \vec{0}$$

$$\therefore a\vec{l} + c\vec{m} + (b+r)\vec{n} = \vec{0}$$

となる.  $\vec{l}, \vec{m}, \vec{n}$  は 1 次独立であるから

$$\begin{cases} a = c = 0 \\ b + r = 0 \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} \vec{PP'} = \vec{0}, \vec{Q'Q} = \vec{0} \\ \vec{PQ} = \vec{P'Q'} \end{cases}$$

であり,  $P$  と  $P'$ ,  $Q$  と  $Q'$  は一致し, 直線  $PQ$  と直線  $P'Q'$  は一致する (一意性).

以上より,  $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線がただ 1 つ存在する.